

～防災のとりくみ～

はじめに

前号では、地震のしくみや地震が起きた場合の避難や家族との連絡手段についてお話をさせていただきました。

今回は、沖縄総合事務局で行っている防災業務の取り組みについて紹介します。

1 防災イベント(防災啓発活動)

沖縄総合事務局では、防災の備えについて親子で学ぶきっかけになるよう「備えよう、親子で学ぶ防災展」を開催しています。このイベントでは、防災についてのパネル展、防災クイズ、備蓄食の試食、手作り防災グッズ(新聞紙スリッパ)など、親子で楽しみながら参加できるブースを設置しています。多くの親子に参加してもらい防災について関心をもってもらいました。

2 防災訓練

大規模災害が発生したときに備え、沖縄総合事務局では、さまざまな訓練を行っています。また沖縄県や、那覇市など関係機関と連携した訓練も行っています。

令和元年度においては、18訓練(沖縄総合事務局主催11訓練、県などが主催7訓練)に防災担当者が参加し、防災力向上に努めているところです。

令和元年8月1日 子ども見学デー 参加者:約250人



カレー、ハヤシライス、牛丼など防災備蓄食を試食



地震のときに割れたガラスなどで足にケガをしないための、新聞紙ができるスリッパ作り

令和元年8月20日 親と子の防災・お天気教室 参加者:約250人



防災パネルを見ながら親子で防災クイズに挑戦



クイズに参加した子ども達に備蓄用クラッカー缶を配布

令和元年度 主な防災訓練

時期	主催	訓練名	訓練概要	参加機関	
				沖縄総合事務局	関係機関等
7月 3日	開発建設部 防災課	防災訓練 (風水害)	初動体制構築、関係機関への情報伝達、災害応急復旧等 ※実動訓練を伴う、情報伝達訓練	開発部 各課 開発部 各事務所 総務部 経済産業部	国土地理院 沖縄支所 沖縄地方防災エキスパート災害協定を締結する協会(3団体)
9月 1日	【沖縄県】 【宮古島市】 【多良間村】	沖縄県 総合防災訓練 (実動訓練)	県主催の震災に対する総合的な防災訓練への参加(初動措置訓練、各種の災害対策活動訓練等) ※宮古島市において開催 ※開発部 ヘリテレ映像の配信	総務部 開発建設部	第11管区海上保安本部、陸上自衛隊第15旅団、沖縄気象台、沖縄県各部、各市町村、指定公共機関 指定地方公共機関、医療機関、ライフライン関係等、住民等
11月 13日	【沖縄県】 【担当市町村】	沖縄県石油 コンビニート等 防災訓練	石油コンビニート火災や燃料流出等の災害を想定した訓練を実施。 ※開発部 ヘリテレ映像の配信	総務部 経済産業部 開発建設部	第11管区海上保安本部、陸上自衛隊第15旅団、沖縄県各部、各市町村、各消防機関、医療機関、住民等
11月 25日	開発建設部 防災課	令和元年度 道路啓開訓練	大規模な地震・津波の発生に備え、関係機関の連携・協力の下、道路啓開に必要な各種対応の手順を確認し、必要な対応を習熟することを目的とする	開発部 各課 開発部 各事務所 経済産業部 総務部	陸上自衛隊第15旅団、県警、那覇市消防局、浦添市消防本部、沖縄県、沖縄市、那覇市、名護市、沖縄県建設業協会、NEXCO、沖縄電力、NTT等
12月 17日 18日	【沖縄県】 【陸上自衛隊】	美ら島 レスキュー	沖縄で発生した大規模地震及び津波を想定した図上・実動訓練 ※沖縄県 (総、経、運、開) 図上訓練の実施 (ロールプレイング方式)	総務部 経済産業部 運輸部 開発建設部	第11管区海上保安本部、海上及び航空自衛隊、沖縄気象台、沖縄県各部、各市町村、指定公共機関、医療機関、ライフライン関係等
2月 24日	開発建設部 防災課	TEC-FORCE 研修	TEC-FORCE概論、被災状況調査手法(講義・演習)	開発建設部	—
2月 26日	総務部 防災・危機管理課	防災訓練 (非常参集・安否確認)	初動体制の構築、災害時の安否報告方法の確認・修得	局全体	—

令和元年11月 道路啓開訓練

沖縄本島南島沖地震3連動などの大規模な地震・津波の発生に備え、沖縄県、那覇市、自衛隊、警察、消防など関係機関の連携・協力の下に、道路啓開に必要な各種対応の手順を確認し、必要な対応を習熟することを目的に訓練を行っています。



令和元年12月 美ら島レスキュー2019

沖縄で発生した大規模地震及び津波を想定したロールプレイング方式による図上訓練で、県内自治体や防災関係機関との連携強化や災害対処能力の向上を図ることを目的に行っています。



沖縄総合事務局では、所管施設が被災した場合を想定し、道路班、空港班、港湾班、運輸班、石油ガス班などが関係機関と連携を図り、情報収集・伝達や迅速な災害対応の習得に努めています。

※図上訓練(ロールプレイング方式)とは…災害時と同じような状況を設定し、その中でコントローラー(進行管理者)からプレイヤー(訓練参加者)に対し、災害時に起こる様々な「状況」を付与し、その状況への対応を速やかに決定していく訓練。

3 防災会議

東日本大震災を契機に、沖縄総合事務局では「沖縄防災連絡会（平成24年11月設置、35機関より構成）」（以下、「防災連絡会」という。）において、テーマごとの各部会（道路啓開等検討部会、電力部会、水部会等）を設置し大規模災害発生時の各種検討を行っています。また平成29年7月に「沖縄の持続的な発展を支える防災対応推進会議」（以下、「推進会議」という。）を設置し、特に大規模地震・津波災害発生時の初期段階における防災対応に関する課題に関して、経済界、学識者、市長会代表、観光関係者などの有識者からのご意見を頂いています。

令和元年9月11日に第1回推進会議を開催しました。推進会議では、平成30年度の中間取りまとめの報告、八重山諸島南方沖地震（3連動）が発生したことを想定した災害シミュレーションを行い、空港、港、道路、水道、電気などの社会インフラの被害想定や課題について議論を行いました。

これを受け、防災連絡会（令和2年2月13日開催）で検討を行い、その結果について次回の推進会議で報告することとしています。



令和元年9月
沖縄の持続的な発展を支える防災対応推進会議

トピックス

ご自宅は安全ですか？

阪神・淡路大震災では建物の中だけがをした人の約半数（46%）は家具の転倒、落下が原因だったという調査結果があります。事前に対策をすることで被害を防ぐことができます。自分や家族の命、安全を守るために、家具や家電製品の固定をしましょう。

① 自宅の家具の配置などを確認し、危険度をチェック！

- 避難の妨げとなる出入口付近や廊下、階段などに家具を置いていないか。
- 寝室や幼児・高齢者がいる部屋に多くの家具を置いていないか。
- 地震時の出火を防ぐため、火気の周辺に家具を置いていないか。
- 家具の上にガラス製品等落下すると危険なものを置いていないか。

② 家具を固定する方法は？

家具の転倒防止に効果が高いのが、壁と家具をL字金具とネジで固定する方法ですが、工具を使用したり、壁の下地がしっかりした場所に固定しなければならないなど、専門知識が必要になる場合があります。

また、賃貸住宅などでは、壁に穴を開けられない場合もあります。

このような場合でも、伸縮棒（突っ張り棒）やストッパー、粘着マットなどを使用し、簡単に家具の固定ができる方法を紹介します。ホームセンターや百円ショップで購入できるので、あまりお金をかけずに簡単に家具の転倒防止対策ができます。

伸縮棒（突っ張り棒）



家具と天井の隙間に設置します。ネジ止めする必要がないため、賃貸住宅でも使用できます。粘着マットやストッパーと組み合わせるとより効果的です。取り付け位置は、家具の奥（壁側）に設置すると転倒防止効果が高くなります。

ストッパー



家具を後ろに傾けて前に倒れにくくします。簡単に設置できますが、ストッパーだけでは効果が薄いため、伸縮棒などと合わせて使うと効果的です。

粘着マット



粘着性のゲル状で、家具の底面と床面を接着させます。比較的軽い小さな家具や、電化製品の転倒対策に有効です。水で洗うことで、粘着力が戻り繰り返し使用できます。

キャスター下皿



キャスターの下に置き、家具の移動を防止します。